

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

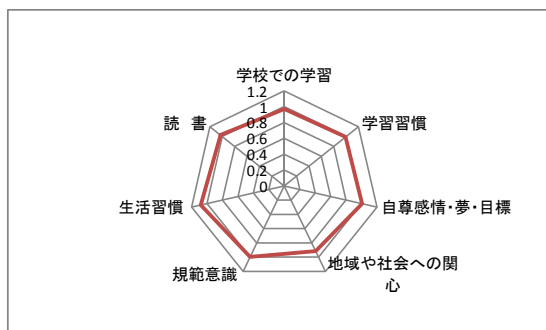
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より3ポイント上昇した。「書くこと」の領域では、上回っている。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことや、手紙の構成を理解し後付けを書くことなどは、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・俳句の情景を捉える問題や漢字を正しく書く問題で正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・昨年同様に、全国平均正答率と同程度である。「話すこと・聞くこと」の領域では、上回っている。	全国平均正答率との比較 <b>同程度</b>
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すことや、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことの問題の正答率は、全国のそれよりも高かった。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回った。「図形」の領域はわずかに全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・立方体の展開図の面と面の位置関係を問う問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	・高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を問う問題での正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、数量や図形についての知識・理解においては全国の正答率を上回った。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・平均の求める式を考えたり、平均の求め方を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された式の中の数が表す意味を考え、表と関連付けながら考え問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦すると答える児童や、自分にはよいところがあると思うと答える児童の姿が全国平均よりも多く見られた。しかし、授業では、「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の回答が全国に比べて低い傾向にある。学習に対する自主性を高めていく必要がある。</p> <p>・家で、自分で計画を立てて勉強している児童が多く、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますかの回答からも全国平均よりも多く勉強している実態がうかがえた。今後もこの傾向が続くように家庭と連携をとり、家庭での学習力の向上を図りたい。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>◎朝のスキルアップタイムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週「月・木」については、算数スキルアップ、「火・水」については、読書、「金」については、国語スキルアップを実施する。</li> </ul> <p>◎自分の考えを表現する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、自分の考えを書くことの習慣化を図り、ICTを効果的に活用して児童の表現する意欲とともに、表現する力を高める工夫を行う。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>◎家庭学習習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ウィークを設定したり、児童の自学ノートを校内掲示板で紹介したりしながら、学校と家庭が連携して家庭学習習慣の定着を図る。</li> </ul> <p>◎基本的な生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の家庭生活習慣に関する実態を把握し、学校だよりやHPで紹介することで、学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着を図る。</li> </ul>
--